

札幌支部活動報告

1. 活動方針

「次期研究主題の設定を見据えた札幌研究大会の開催」 ～新学習指導要領の改訂を踏まえて～

平成28年度に行われた第53回北海道学校体育研究大会の成果と課題を踏まえ、各ブロック授業を行うことができた。

平成29年度は、研修会を3つ行った。(夏季実技研修・冬季学習会・出前研修)今年度からの取組である出前研修を中央小と発寒東小で行った。講師は研究部員が務め、参加された先生方の笑顔が見られる研修会になった。

研究推進では、平成30年度の新主題設定に向け、冬季学習会で行った「次期研究に向けてのグループディスカッション」で交流を図ることができた。今後は、今年度行われた研究大会、ブロック研究、プロデュース授業、学習指導要領改訂などを踏まえ、新研究主題を設定していく。

2. 業務内容・分担

(1) 研究活動の推進

～小1-4、小5・6、中学校各ブロックの研究内容面を推進する。

(2) 実技研修会

・夏季実技研修会を開催し、連盟会員以外にも広く呼びかけていく。

(3) 冬季学習会

・実践発表や研究交流を通して、会員の学習の場とする。

(4) 出前研修

・研究部員が体育授業のワンポイントの説明をする。今年度中央小と発寒東小で実施。

(5) 研究部プロデュース授業公開

・研究部員が公開授業をプロデュースし、人材育成にあたる。

(6) 北海道学校体育研究連盟との連携

・全道研究担当者研修会への出席を通して、各支部との交流、情報の収集に努める。

3. 活動報告

(1) 「第27回 札幌市学校体育研究連盟 研究大会～美香保中学校」について

【公開授業】 授業者 曾我 亮太 教諭
体育理論「文化としてのスポーツの意義」

助言者…中島 寿宏様 (藤女子大学准教授)

助言者…岩田 悟様 (札幌市教育委員会指導主事)



視点1 子どもの自信につながる教師の関わりと評価

○困りを感じている子に対して、意図的な教師の関わりが見られた。

視点2 誰もが楽しい教材化

○本時の課題解決につながる既習の活用が見られた。

視点3 個々の課題解決の場を明確にした学習

○グループワークで積極的に考えを交流する姿が見られた。効果的にグループワークを設定したため生徒同士のよい関わり合いが生まれ、深い学びにつながった。

●ワークシートをさらに工夫すると、課題解決の場面で生徒の思考を深めることができた。

(2) ブロック授業について

○小学校1-4ブロック

ブロック研究授業 青山 拓也 教諭 3年 三角山学校 12月15日(金)
「ゲーム ネット型ゲーム ハンドテニス」

研究部プロデュース授業 秋元 来舞 教諭 1年 伏見小学校 2月21日(水)

○小学校5・6ブロック

ブロック研究授業 本間 大介 教諭 5年 福井野小学校 12月 8日(金)
「ゲーム ゴール型ゲーム ハンドボール」

研究部プロデュース授業 中森 健夫 教諭 5年 北光小学校 2月20日(火)

(3) 研修会について

・小学校夏季実技研修会

「体づくり運動・ゴール型ゲーム・跳び箱運動の研修」資生館小学校 7月28日(金)

・冬季学習会

「学習指導要領の改訂・次期研究主題設定に向けて」資生館小学校 1月 5日(金)

4. 学習指導要領の改訂に向けての学習会について

・1回目 研究部員での学習会 8月16日(水) 白楊小学校

・2回目 岩田指導主事を招いての学習会 9月15日(金) 白楊小学校

○研究部員各々の観点から重要なことや疑問に思ったことを交流することで、学習指導要領についての理解が深まった。

○学習指導要領解説の大事なポイントを岩田指導主事から学ぶことができ、次期研究主題設定に向けての方向性が定まった。

○今回の学びをブロック・プロデュース授業に生かしていく。

5. 成果と今後の課題

○新しい組織体制で取り組んだ1年だったが、各部と連携をとることで円滑に進めることができた。

○今年度からの取組である出前研修では、夏季実技研修会で行った内容を出前先の学校の要望に合わせて好評だった。

●年度当初の動き出しが遅かったため、3学期にプロデュース授業を2本行うこととなったので、30年度は、プロデュース授業を1学期と3学期に1本ずつ行うようにしたい。